



## ライオン株式会社（<sup>やまなし</sup>山梨市/山梨県）

### 地域特性

<sup>ふえふきがわ</sup>笛吹川の上流部にある山梨市<sup>みずくち</sup>水口地区の約65haに及ぶ市有林では、松くい虫の被害が頻繁に生じ、山梨市は、被害拡大防止のため樹種転換を進める森林として位置づけていました。しかし、財政的に厳しい状況や、地形的に路網整備状況が悪く重機での搬出等が困難なことから、樹種転換が進んでいませんでした。

### きっかけ

ライオン株式会社（以下「ライオン」）では、「洗うこと」を通じて水と関わりが深いことから、CSRとして水資源保護に貢献する森林整備活動の対象地を探していました。平成18年から、森林整備への企業や団体の参画促進を目的とした山梨県の「企業の森推進事業」が始まり、その対象林として水口地区の市有林が紹介され、第一号として、ライオン、山梨市と峡東森林組合で「ライオン山梨の森」森林整備協定を締結しました。

### 何を目指したか

ライオンでは、水資源保護への企業貢献とともに、社員参加による森林整備を通じて社員の環境意識を醸成することを目指しています。

### 何をやったか<現状維持>

平成18年に、山梨市、峡東森林組合、ライオンは「ライオン山梨の森」森林整備協定を締結しました。ライオンは、森林整備事業への協賛金の提供、野生動物生息状況の調査、同調査結果を踏まえたライオングループの社員によるボランティアや新入社員研修としての森林整備作業を行うとともに、地域との交流を進めています。

### 主な課題

#### <土地>

森林整備は本業と関わりが薄い分野のため、活動対象の森林の選定にあたっては仲介が必要でした。

→解決策は後述

#### <仕組み>

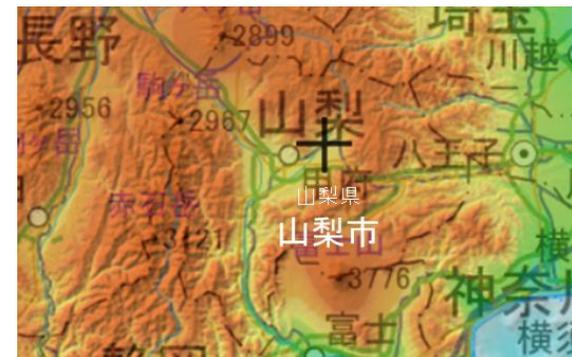
森林整備は本業と関わりが薄い分野のため、整備の実施にあたっては、森林整備の専門家による指導が必要でした。

→解決策は後述

#### <人（主体）>

森林整備活動の意義があまり伝わらず、参加する社員が少ない時期もありました。

→解決策は後述



## ●期待される効果

国土管理	・水源林の維持管理
自然共生	・樹種転換による松くい虫被害の拡大防止 ・野生生物の生息地保全
防災・減災	・森林の適切な維持管理による土砂の流出防止や洪水防水機能の維持
地域づくり	・水口地区の婦人会による昼食の提供や、小学生と協働での植林など、住民と企業社員の交流

関連予算

自主財源（ライオン株式会社）

問い合わせ先

ライオン株式会社CSR推進部（03-3621-6211（代表））

# ●取組のステップ

平成18年

森林整備活動の開始

平成18年、ライオン、山梨市と峡東森林組合で協働で森林整備を行う5カ年の森林整備協定を締結しました。ライオンからの協賛金を伐採・搬出・植栽の実施に充て、ボランティア休暇制度を利用したライオングループの社員を中心に、森林組合から作業方法の指導を受け、年3回、春の植林、夏の下草刈り、秋の間伐など森林整備活動と地域交流を行ってきました。

平成22年には、生物多様性の観点から、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパンと共同して野生動物の生息状況調査を行い、「ライオン山梨の森」の中でも、比較的下流部の緩斜面の森とより上流部の急傾斜の森では違う動物が生息していることがわかりました。その経験から、森林整備活動のなかで、動物の糞の状況等から動物の生息を確認できるようになりました。

平成23年

森林整備活動の充実

平成23年から5カ年の第2期協定の締結後、森づくり支援を行う（公財）オイスカがコーディネーターとして参画し、森林への理解や整備作業に特化した活動内容に充実しました。春の植林、夏の下草刈り、秋の間伐などの森林整備活動を継続しています。



オイスカによる「ライオン山梨の森」の説明（ライオン株式会社HPより）



八幡小学校5年生とライオングループ社員で植林（ライオン株式会社HPより）

平成28年から、山梨市、峡東森林組合、オイスカ、ライオンの4者で第3期の協定を締結しており、5カ年の活動を推進しています。

今後の展望

# ●得られた知見（課題と対応詳細）

## <土地>

### □対象となる森林の登録と仲介

平成16年から、山梨県のやまなし森づくりフィールドの登録が始まり、山梨市から水口地区の市有林の登録をしていました。平成18年度には「企業の森推進事業」が始まり、山梨県からライオンに山梨市水口地区が紹介され、現地も確認した上で、対象地区として決めました。さらに、山梨県の仲介により、山梨市、森林組合及びライオンで「ライオン山梨の森」森林整備協定を締結しました。

## <仕組み>

### □有識者からの支援

ライオンは、本業と関わりが薄い森林整備に関する知見・経験を補うため、森づくり支援を行う（公財）オイスカのコーディネーターにより森林整備を行いました。

## <人（主体）>

### □環境意識を高め参加促進

開始当初は森に親しみをもちてもらおう意図で、森林整備作業の他に木工体験なども行ってみたが、参加する社員から娯楽的な活動と受け取られ参加する社員が少なくなりました。

第2期から協定に参加したオイスカにより、森の現状の解説が行われるようになり、参加者の活動も森林整備作業に特化されました。それにより参加した社員の環境意識が高まりました。間伐材で作る木製コースターを参加者に2枚ずつ配ることで仲間づくりの声掛けに使っていただく仕組みも作りました。

また、社長をはじめ役員、部長、関係会社社長などの参加により、森づくり活動がライオングループ全体に認識されるようになり、参加者が増えています。

# ●仕組みや体制

